





「もしも学費が無償化になったら」



「もしも助成金がなくなったら」

< JK8の学びから感じたこと >

★誕生と発展

サマセミの講座をきっかけにして(触発を受けて)自主的な学びのグループが誕生したわけですが、発表メンバーをみると、マネージャーの竹中さんは高2だが他のメンバーは中学生(1人は公立中)と高1ばかり。この若い(?)生徒達が自ら学びの意味を考え始めた、助成金のJKだけでなく授業改革の意味をJKに加えたことにまず注目したいと思います。

発表者の1人はこの間の経緯について次のように述べています。

「私達はたくさんの方を学んできました。学んだことによって自分の視野が何倍も広がったりとか、すべての学びが楽しかったと心から感じたということがすごく強かったです。じゃあ、授業とどう違うのか?なんで授業は心から楽しめないのか?」

そんな疑問から学びを考え始めたということでした。

★学校の学びとJK8の学びの違いは?その関連は?

マネージャーの竹中さんはまとめの発言でこのようにふり返ります。

「私も始めは学校の中に学びなんてないと思っていました。なぜなら、私は高フェスに入ってから学びの楽しさを知ったからです。学校の勉強なんて大学受験のためじゃん。そう思っていました。けどこのレポートを作る会議や、いまのレポートを聞いていて改めて分かったのが、学校の学びで培われた基礎知識がないと高フェスでやっている学びが実は本質的には理解できないんじゃないかと思いました。」

社会と直接つながる学びから”学びのスイッチ”がオンになることはこれまでもよく語られていたことですが、そこを起点に学校の学びの意義をとらえ直すことを中高生がしているところがすごいと思いました。このような意識の変化をもたらしたJK8の学びのプロセス、寄り添った顧問の先生達の助言にとっても関心を持ちました。一つははっきりと言えるのは、この学びが助成金問題に関わり、集団的に行われたことによって生徒達の学びに対する意識が明確なサイクルの中に位置づけられていることです。それは< 思い >と< 行動 >と< つながり >のサイクルです。

「学べば学ぶほど思いが強くなる。思いが強くなればもっともっと行動したくなる、つながりを生み出したいくなる。この両方を達成するためには学びの楽しさを私達がどんどん広めていく必要があります。学びを発信することで人の意見を聞けたりして自分の中での考えが確立していきます。こんなふうにかくさんの力を集めているのが学びです。」

”学びの概念砕き”の極致、”学ぶ者の自己運動の誕生”をJK8の学びに見た思いでした。